



J 伝言板 新春特別号



謹賀新年



2006年度開始のホイッスルが吹かれ、新たな目標に向けて練習に励んでおられることと存じます。

ジャパンカップ・ミニバレーボール大会は、5年目を迎えることになりました。これも皆様のご協力の賜であり心より感謝申し上げます。

当大会実行委員会は、皆様のご協力を得ながら、①ルール及び規約ブックの作成 ②集計の迅速化 ③ルール、規約の改正 ④審判講習会の実施 ⑤ホームページの作成などを行ってきました。本年も一歩でも二歩でも前進できればと決意を新たにしています。

当面の課題としては、①安定した参加チームの確保 ②審判の精度を高めることが挙げられると思います。年3回という継続的大会のため参加チームの安定した確保は重要な課題です。各チーム、ご協力を御願ひ申し上げます。

審判については、当面専任の審判は困難であることから、各人が「ジャッジパワー」を付ける以外にはないと考えます。

そのためには、公正な第三者に徹するという自覚、ルールの熟知、的確な判断力が不可欠だと思います。もちろん、ルール自体を分かりやすく合理的にすることも必要です。

長期的な目標としては、競技スポーツとしてのミニバレーボールを一層発展させる為の広報活動や九州大会の実現などが考えられます。

実行委員会としましては、より良い大会になるよう一層努めていく所存です。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

(大会顧問 園田 昭人)

明けましておめでとうございます



本年は、大会5年目を迎えることができます。これもひとえに皆様方のご協力の賜だと感謝申し上げます。今年も宜しくお願い申し上げます。

一つの大会が、何年も継続して行われるということは大変なことだと思います。しかも政治色も特定スポンサーもなくやっつてこられるということは、大会に対する参加者の高認識と高い目標設定ではないかと感じます。

より良い大会を目指す為にはルール、規約などまだまだ様々な問題点を改善していく必要があります。また永く継続する為には、後継者の育成も責務だと考えております。いかにデジタル時代とはいえ、アナログ的要素も不可欠です。「人が人を創る」大会5年目を迎えるにあたり、人の痛みが分かり、人を想う心で大会運営に努力する、そういう若い人材が数多く現れることを願ってやみません。自分さえ、或いは自分のチームさえというのではなく、大局観をもってジャパンカップに臨んでいただきたいと思っております。

(大会会長 清田 正明)

新春特別座談「

新春を飾るにふさわしい人といえ、この人しかない！ということでお、「オリーブ」さんを特別ゲストにお迎えいたしました。

会長「オリーブさん。宜しくお願います。」

オリーブ「こちらこそ宜しくお願います。私でいいのですか？」

会長「ノールの柴〇さんの推薦なんです。どういう訳で貴女を推薦したのかは・・・？ですが。」

オリーブ「・・・（しばし妄想の世界に入り込む）（あの時のことを根に持ってるのかなあ？イヤ、あの時のことかも？そうだ！あの時のことだ！）」



会長「早速ですが、オリーブさんの今年の目標は？」

オリーブ「ズバリ！脱子作りで、打倒パンゲアです！」

SSK「子作りったって、年齢的に大丈夫なんですか？ノール最年長でしょう？柴〇氏でも小樽運河で、ジャ〇〇位しか対応できないと思うのですが・・・？（注釈・都はるみ「小樽運河」のフレーズで「〇十路半ばの春がゆきセピア色した雨が降る」）」



オリーブ「と、とにかくパンゲアをぶっ倒し2006年グランドチャンピオンになることなのだ！」

大〇保「アンタさあ、寝言は寝床で言えっつてんだよ！四十年早いつてんだ！」

オリーブ「（独り言）何言ってるの。何年ジャパンにいれると思ってるのよ！今からゲートボールでも勉強しとけば？」

会長「まあ、それ位で・・・。」

SSK「私が世代交代を期待していた美女集団ウイングの辞退で戦況も大きく変わると思っていますか？」

オリーブ「私たち微〇軍団だって美しさでは負けていませんよ（怒）」

会長「冗談は、さておいてどうですか？」

オリーブ「確かにウイングさんの辞退は戦況的には嬉しいのですが、やはり寂しいものがあります。でも、ラピス、シャドール、Get、ピースV21、曲者アイリッシュなど難敵がたくさんいますから一戦一戦取りこぼさないようヒツチコックで（必死こいて）頑張りますよ！」

SSK「・・・？だから8パ氏から地球外生命体と言われるんだよなあ」

オリーブ「昇格組では、コート占有率NO1のスクエアが要注意。忍者フォーメーションで、皆、同じに見えますから、あのチームだけは、ユニフォームを各人色分けするように要望したいですよね！」

SSK「ウイング真理ちゃんの豪快でキレのあるアタックを披露できなかったところが残念ですが、戦国ジャパン2006になることは間違いありません。」



「マナー&節度」



名和道場主を始め、練習場を確保し、チーム或いは個人に練習の機会を与えてくれる人達がいてこそ、皆、練習することができるところである。多くの人は、感謝の気持ちをもってコート設営や掃除をお手伝いするが、遅れてきて堂々と我が物顔で、自分達だけで盛り上がる人達もいるそうだ？

また、「ジャパンは△チーム、あとは自分の思うがままに出る。」などと公言してはばからない人もいるそうだ？

一定のマナーそして、チームを想う気持ちを持って節度ある練習を心がけて欲しいものである。

(SSK)